



STAGE

初期企画

事業 POINTの確認・吟味

- A 子育て中の親が安心して交流できるコミュニティサイト
- B 確かな子育て情報の共有を促進する会員制のサイト
- C 良質なファシリテーターの養成と常駐・適度な介入

ASSESSMENT

アセスメント

【アセスメントB】インターネット子育て支援 サイト調査 (ニーズ・コンテンツ・セキュリティ・システム構成・規約等)

基本構想

実施地域条件

第一次企画案 (事業実施 原案)

- 条件 A チャイルドライン・ママパパラインの実施実績、常設
- 条件 B リスク対応/人材の確保/等に、短期間で対応可能
- 条件 C IT関連の専門家ボランティアを確保できること
- 条件 D 子育て支援の現場を運営している

事業実施地域 決定

実施地のニーズアセスメント

事業企画・実施地域における目的 検討

実施・運営 体制の検討 確定

VILLAGE 構想

運営委員会 招集

第二次 実施内容の具体構想 立案

研修プログラム検討・講師決定

リスクマネージメントの検討・体制 確認

コンセプトからSITEイメージ展開

チラシ・ポスターの作製

ルームマネージャー 募集

VILLAGE 建設

応援隊 (受け手) 募集

ルームマネージャー 研修実施

ヴィレッジRoom 作製

ママパパ(ヴィレッジ)実施と参加者募集 広報

応援隊・ルームマネージャートレーニング

サイトテスト

参加申し込み受け付け 開始

会員ID 発行

運用シミュレーション

サイトオープン

サイトOPEN

運用体制の修正

情報の更新

Roomの更新

参加者・応援隊とのオフ会

VILLAGE 終了
実施事業検証 報告書

会期終了・mamapapaヴィレッジ クローズ



【アセスメントA】 2003年度 子育て支援事業「ママパパライン」実施者へのヒアリング	
目的	乳幼児を持つ親・家庭の子育ての悩みや不安に耳を傾け、共感的に聴く専用電話「ママパパライン」の実施を通じ、話を聞いてもらったり気持ちを受けとめてもらうことで、安定した気持ちを取り戻し、養育者自身が新しい人間関係づくりや育児を前向きに楽しめるようにする。
開設地域	全国8カ所(仙台市・東京都・千葉県・四日市市・和歌山県・兵庫県・岡山県・宮崎市)
乳幼児を育てている親のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■子育てに関する情報を求めている ■コミュニティに参加していない・参加できない ■子育て仲間がない・子育て仲間を求めている ■子育てスキルの不足 ■精神的な孤立・環境的な子育て困難 ■親自身の育ちの課題
サポーター・地域の専門家	カウンセラー・小児科医・弁護士・幼児教育専門家・臨床心理士・児童相談所・助産士・児童福祉士・保健福祉部・精神科医・産婦人科医・教育カウンセラーなど
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みを持つ養育者に向きあうときは、指示でも指導でもなく、「聴く」ことが、最大の子育て応援であることが、明らかになってきた。 ・話を聞いてもらうことによって、心が癒され、必要なら助けを求めているんだ、ひとりぼっちではないといった安心した気持ちを取り戻した。 ・子育ての重圧、孤立から一歩踏み出すきっかけとなる。 ・養育者の安定をはかることは、家庭支援のひとつ。 ・培った「傾聴」の専門性が有効であることを実証。 ・40代~60代のシニア世代の人材が活用される。

【第一次 実施案】 2004年度 ママパパ(ネット)事業実施 原案	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て中の母親・父親を(主に乳幼児を育てている親)対象に、子育て支援を目的とする。 ・ インターネットを活用した情報の交流・気持ちを共感できる場を提供し、地域の多様な人材によるコミュニティを形成し、相談・仲間づくりを図る。 ・ 子育て支援を受けられない状態の親にも、アプローチしやすい場をつくる。 ・ サイト上にファシリテーターを配置し、参加者との関係を深めることで、地域内の支援グループ・自助グループに日常的にアクセスできるような情報提供とエンパワーをする。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援を実現できるサイト運用システムを構築する。 ・ サイト運用のファシリテーター及び、地域の子育て支援リーダーなどを対象に自己尊重トレーニング、共感と受容などの研修を実施し、受け手を養成する。 ・ 先輩ママ・パパと、情報を共有する部屋・ピア・サポートの部屋を設置 ・ 子育て支援を目的とした、会員制サイトのテストランと、1ヵ月間のオープン運用を行う。 ・ ファシリテーターのリード・必要時に介入・地域の子育て支援リーダーの交流をはかる。
初期課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハイリスクの家庭が含まれていることも想定=参加してこる親の状態をどこまで捉えられるか? ・ 経済的に困難な家庭の場合、インターネットへのアクセスは無理。 ・ 将来的には携帯電話によるアクセスを視野に入れたいが、現状では技術的に困難。
実施地域	・ 宮崎県宮崎市 (・協力 特定非営利活動法人 みやざき子ども文化センター)

【宮崎実施にあたっての特記事項】宮崎の状況とニーズをふまえて、実施内容を具体化する	
宮崎の子育て、インターネットの状況	宮崎では、核家族化・転勤族などにより、身近に子育てについて相談する人がおらず、乳児を持つ母親が、友達・仲間作り、育児についての悩みを分かち合うためにサイトを訪問・閲覧したり、互いの情報・体験を共有する場になっている。アセスメントによって、ニーズがあることを確認。
ママパパ(ネット)実施イメージをmamapapaヴィレッジとする	宮崎におけるお母さん達の、子育てサイトへの参加の目的を踏まえ、アフリカの語「子ども1人育てるには、村中の人々が必要」というイメージを膨らませ、サイト上に架空の村(ヴィレッジ)を作る。その村の住人として受け手(応援隊・ルームマネージャー)を配置する。
イメージと内容	<p>応援隊は先輩ママ・パパ、現役ママ・パパとし、インターネットを利用して子育てをキーワードに集まってきた人々と共に、参加者(子育て中、特に0~2才の子どもを育てている親)に、情報を提供し、共感することでコミュニケーションを深め、地域の現実につながるコミュニティの形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て中の親が、家において少しでも外との繋がりを生むようにサポートする。 ・ 多様な人間関係を体験できるように、ファシリテートする。 ・ イベント等の情報をはじめとし、子育て全般にわたる情報を発信・提供する。その効果により、地域に一歩を踏み出すように務める。 ・ アンケート等で子育てをする者にとってのニーズの確認 ・ 応援隊の各自の生活に合わせて、みんなでサイトを見守る。 ・ 応援隊は公募：20名 ・ 実施場所：インターネット上のサイト【mamapapaヴィレッジ】 ・ アプローチ拠点：みやざき子ども文化センター、チャイルドライン、東京六本木、各自宅
リスクマネージメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用規約を明記。参加者はその承諾と、住所・氏名・電話番号・メールアドレスの登録をもってIDとパスワードを発行。 ・ 応援隊の対応 → 行政サービス等の情報を伝える。様子を見ながら、参加者からの多様な意見を促進する。また、見守ることも必要。 ・ チャット等で誹謗中傷が書かれた場合、管理者権限で削除することを記載し削除。サイトの閉鎖。